

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070201916		
法人名	医療法人社団 醫光会		
事業所名	グループホームのぞみ		
所在地	群馬県高崎市下佐野町752-1		
自己評価作成日	令和6年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和6年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

単独のグループホームとは違い、様々な施設を持つ組織の中のグループホームとして、そのメリットを生かし協力体制が整っています。また毎日明るく楽しく安心して暮らせるように、笑顔と笑い声が弾むホームを心がけています。毎日の日課としてラジオ体操・四肢体操を行い、DVD体操も取り入れていきます。コロナウイルスにより中止していた外出イベントはまだ行えていませんが、毎月室内イベントをして、体を動かしたり、料理をしたりして利用者様、参加型レクリエーションを行っています。また、散歩コースにも恵まれており、天気の良い日はなるべく外気にふれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周围は田畑に囲まれ、隣にある幼稚園から子供の声が響き、時折花や果物を持参した交流が行われている。日課での散歩・ゴミ出しを利用者と職員で行い、行き会う人や法人が運営する老人ホームやデイサービスを利用する人との挨拶や会話を交わす機会となっている。法人本部による定期的な職員研修があり、参加できない職員は資料を基にレポート提出することで、職員全員が共有できるようにしている。また、職員が希望する資格取得研修については、向上心を持って働けるよう本部からの研修費補助がある。利用者の食事は、嫌いなものも食べてもらえるようにしたり、状況にあわせた食形態にしたりして完食してもらえるようにして、職員も同じ食事を一緒にテーブルにつきとって楽しい食事の時間を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義・役割を念頭に置いた事業所理念をもとに、地域との関連性を盛り込み、管理者と職員がその理念を共有して実践に繋げている。	年度初めに理念について、現在の利用者の状況や地域との関係性などを踏まえ職員で話し合い、日々の支援について見直しを行い、理念の共有を図っている。また、日々の関わりでつまずき・悩んだときは、理念に基づいて職員で話し合うようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが緩和してきているので、近くにある幼稚園児から声がかかる状況にある。感染状況を見ながら徐々に交流の再会を目指しております。	事業所隣の幼稚園からは、時々、花や果物持参での訪問による交流会が行われている。また、日常的に散歩やゴミ出しなどの機会であいさつなどを交わし、関わりが持てるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状では、コロナ緩和に伴い、地域との交流を徐々に再開しつつあります。区長や民生委員の方々には、運営推進会議への案内状とともに各月、イベントを行った時の写真を載せた、のぞみ便りを送らせていただいております。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、コロナ緩和に伴い、施設での運営推進会議を2カ月に1回開催して、状況報告書をしています。	会議は2ヶ月に1回行い、事業所の状況を「のぞみ便り」を通じて報告している。参加者には曜日や時間を変えながら参加できるように開催しているが、参加にはつながっていない。	事業所の取り組みを市や地域の方に伝え意見交換ができるよう、具体的な議題を設けて話し合うことや、それに伴った社会資源を活かしていくなど、双方向的な会議となることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の再開に伴い、メンバーへののぞみ便りと招待状を送らせていただいております。ケアマネージャーを通し、利用者様の区分変更等を行っております。	ケアマネージャーが区分変更や利用者の日々の生活などについて市の担当者ややり取りを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い利用者様が数名利用されており、玄関の施錠は24時間行っております。また職員には、年2回開催される身体拘束の研修に参加し取り組んでおります。	利用者の安全の為、やむを得ず玄関を施錠しているが、利用者が外出しそうな様子がある時は、声かけをして外に一緒に出掛けて、自由に入出入りできるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回開催の研修会において、高齢者虐待防止法について学び、事業所内での虐待防止法に取り組んでおります。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連の研修が開催される際には参加し、学ぶ機会を持つように努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定等がある場合は、個々に十分な説明を行い、家族の不安や疑問点がないか確認し、理解、納得頂けるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家人来訪時には、利用者もふくめ話し易い雰囲気づくりに勤め、また玄関には苦情の受付箱をもうけ、電話やファックスでも受け入れるよう、玄関に案内を掲示している。	利用者の日頃の様子から、利用者の食事時間の変更を検討するなど、反映に努めている。家族には、電話や面会時に、利用者のことだけでなく、事業所のことについて些細なことでも気づいたことがあればと問いかけており、意見があれば会議で検討することとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催している職員会議において意見交換や提案を話し合い、毎日の申し送り時にも話し合いをし、情報を共有して実践に勤め反映させている。	管理者は、年2回の職員面接を行い、そのなかで要望や意見を聞いている。申し送り時や職員会議においても意見や提案を話し合い、反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に管理者や職員に対し気を配り、勤務しやすい環境作りに勤めている。年に2回定期の面談を行い現状の把握に勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の定期的に行われている研修や法人外での研修内容について報告書を提出し、参加出来なかった職員用に研修資料を回覧している。また介護福祉士・介護支援専門員の資格取得を目指して勉強するよう指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナが緩和してきているので、交流の機会を行っていかうと思っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者との会話やコミュニケーションを通して困っている事や不安に感じている事、要望や希望をくみ取り傾聴して、信頼関係が築けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が来苑した際、希望や不安、要望などないか積極定期的に声掛けをし、信頼関係が築けるよう努めている。また、来苑できない家族には電話をしてコミュニケーションを取り、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族のおもい、状況等を把握してよく傾聴し、まず1番に必要としている支援を見極めて、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は同じ家族の一員との考えで共に過ごし学び支え合う関係を大切にしている。人生の先輩である事を尊重し、昔話や生活の知恵など教えてもらい、お互いに支え合える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態をこまめに報告したり、相談するとともに、家族が来苑時は本人と家族の潤滑油になるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが緩和しつつありますが、安心安全に面会ができるように、利用者様、家族ともにマスク着用し短時間ではありますが、居室にて面会が可能となりました。	利用者の家族関係や生活歴を把握し、それを基に日々の生活の中で馴染みのある人や場所などの関心事について話しかけ、実際の行き来などは困難であるが記憶のなかで想起できるような機会を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール内で利用者同士が関わりが持てるようにテーブルの配置を考え、時々席替えをしたりして新たな関わりが持てるように支援している。利用者同士の橋渡しが出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた方などに対し、家族から様子を聞いたり、相談や支援に努めている。お会いできた時には声をかけ、最近の様子など伺って支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から、本人の希望を聞いたり、行動や言動の中から本人の思いや意向を察し把握することに努めている。言葉による表現難しい方には、毎日の生活の中で、ちょっとした異変の気づきを大切にして、見落とさないよう努めている。	日々の関わりの中で、利用者の言葉や表情をもとに思いを把握し、職員会議や申し送り時に職員で共通認識を持ち、利用者の思いに添えるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から要望や意見を聞き、これまでの暮らし、生活環境の把握に努め、職員が寄り添い馴染めるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士の情報の共有を密にし、利用者一人一人の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者と話し合い、要望や意見を聞き、現状に即した個別介護計画を作る。状態の変化に応じてその都度本人、家族の意向等を確認しながら現状に即した介護計画を作成している。	職員は利用者を受け持ち、担当職員が中心になりモニタリングや職員会議で話し合い、介護計画を作成している。	サービス内容にそったケア記録がされることで、変化に気づき、モニタリングや介護計画作成につながるよう、職員で話し合われることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録と職員間の申し送りノートで日常の様子、ケアの実践・気づき等を職員間で情報を共有している。毎月のカンファレンス以外でも変化が生じた際にはその都度話し合い計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況判断により、通院介助、買物支援等、必要に応じて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過前は、幼稚園から来苑や訪問等を行っていた、傾聴ボランティア等も来苑があったが、しばらく行っていなかった。コロナが緩和しつつあるので、以前の幼稚園からの来苑や訪問等を徐々に行って行けたら良いと思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意見を尊重し適切な医療が受けられるよう支援している。かかりつけ医の定期的な往診も実施していて、医療が必要な時にはその都度臨機応変に対応している。	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診が行われている。受診は、家族対応が基本になっているが、状況にあわせて家族が県外に居住している場合などには、職員が対応している。医療機関には、日々の利用者の様子を報告し、適切な医療が受けられるよう図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	それぞれの職員が得た情報や気づきは全職員が共有し、訪問看護師に伝え相談し、家族に報告し適切な受診等が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケースワーカーや相談員とこまめな連絡を取り、情報交換や相談を行って、利用者にとってより良い医療が受けられるよう務めている。また普段から良い関係作りにも務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人・家族と話し合い、ホーム内で看取りを希望されるか事前に確認をし、また重度化してしまった際でのホーム内での対応の仕方も双方理解する様にしている。	入居時に、本人・家族に事業所で出来ることを指針に基づいて説明し、書類を交わしている。希望があれば、看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会や講習会に参加して、事故発生リスクや対応策を常に学び直し、未然に事故を防ぐ様にしている。参加し出来なかった職員は参加した職員から学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルが作成され法人として、消防署立ち合いと自主訓練を含め年2回、昼夜・風水被害を想定して避難訓練を行っている。隣接する有料老人ホームへ避難することも視野に入れている。	消防署立ち合いのもと、年2回昼夜想定で避難訓練を、利用者也参加して行っている。備蓄も準備している。	周囲の施設や近隣とどう協力して体制作りができるかを職員全員で話し合い、協力体制につながることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人の誇りやプライバシーを損ねない様個人の気持ちを大切に声掛けや対応に注意を払っている。個人情報の取り扱いについても慎重に対応している。	日々の生活において、個々の利用者の意見や希望に添えるよう心掛けている。お客様という考えで、利用者との距離が近くなりすぎないように注意している。利用者を尊重し、扉の開閉や呼称などあたり前のことをあたり前に行うように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話や表情、行動表現からのサインを読み取り、本人の意思や希望が気兼ねなく言える雰囲気づくり自己決定が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせて本人の意見や、希望を尊重し希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分好みの衣類を選んでいただいたり、勧めたりしてお洒落が出来るよう支援している。必要なものがあれば家人に依頼して買っていただいたり、ヘアカットも本人の希望に合わせている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	室内イベント等で季節に合ったおやつを提供している。毎食前にテーブルを拭いて頂いたり、手指の消毒をして頂いたりして、食事の準備に参加している。また、飲み終わったコップをかたずけてくれる利用者もいる。出来る事をして頂いている。	法人の栄養士が献立を作成し、食事が届けられ、利用者と職員がテーブル共にして食べている。利用者が嫌いなものは細かくしたり、利用者の状態にあわせてキザミやトロミをつけたりして、完食につながるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月1回体重測定をし、栄養士の作成したバランスの取れた食事を提供している。食事や水分量を記録に残し一人一人に応じた健康管理を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の口腔状態に応じた口腔ケアを行っている。月に1度、歯科衛生士による口腔スクリーニングを行い、6か月に1度、歯科往診で歯科検診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーを尊重し排泄表のチェックをしながら、排泄習慣やパターンを理解・把握した上で、個々に添った支援を行っている。定時のトイレ誘導や毎日の運動も取り入れている。	トイレでの排泄を基本に、排泄表での排泄状況を確認しながら、表情・行動を見て、「ちょっと行きましようか」とさりげなく声をかけてトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士による献立によってバランスの良い食事を摂ってはいるが、便秘はどうしても起こってしまう。水分量を把握し、便秘薬で調整をしながら、毎日運動をして腸の働きを助けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望のタイミング等を考慮して、入浴を楽しんで頂いている。また、入浴剤や季節湯(ゆず湯)施行し香りや雰囲気も楽しんで頂けるように工夫している。	週2回以上を目安に、拒否する利用者にも、その時々希望やタイミングに合わせて、入浴を支援している。個浴のため、利用者も普段話せないことを時間をかけて職員に話したり、利用者に向き合う時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり異なった生活習慣であったことを十分に把握したうえで、状況に応じ利用者の希望やペースを考慮しながら、休息や安眠が出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の薬剤師が事業所に直接訪問し服薬の支援を行う。居宅療養管理指導が開始された。利用者が服薬している薬の目的や用法、用量、副作用など正しく服薬出来ているかを確認し、職員との連携を取りながら介護サービスの向上に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族からの情報をも取り入れて、利用者一人ひとりの生活歴を理解し、毎日変化があつて楽しめるように支援している。四季の変化が伝わるように苑内に飾る花や壁に飾る物を工夫したり、散歩をしたりして気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ過前は、月に1度、外出レクリエーションを行っていたが、現在はコロナ警戒レベルに合わせて、安心・安全を考慮してその都度、行っている。	日々の生活の一部として、天気の良い日は散歩に出掛けている。コロナ禍もあり、遠方への外出は控えていたが、利用者の希望をうけ、状況を鑑みながら神社への初詣を計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したり使えるような支援はしていない。本人の希望している買い物などは、家族に伝えて買って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人への電話や手紙を希望する時は、いつでもやり取りが出来るよう支援している。また手紙や葉書等は出来るだけ本人の字で書いて頂き、家人へ気持ちが伝わるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホール各所に季節の草花や利用者の作品を飾っている。利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。	利用者同士の居心地を考え座る場所に配慮したり、窓から外が見えるところにソファを置いたりして、外の景色や人の動きが眺められるようにしている。壁には、季節がわかる手作り作品が飾られて、それを見ながら職員が利用者 に話をする事で、会話の糸口としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにて気の合った利用者同士で談話したり、ソファに座ってテレビやビデオを観られるように配慮している。一人で居たい時は、居室で休めるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた馴染みのあるタンス、鏡台、家族の写真や利用者の作品、絵画、人形、時計、誕生日カード等を好きなように置いてあり、居心地よく過ごせ、個性ある居室づくりを工夫している。	好きな雑誌を取り寄せ読んだり、新聞を購読したり、これまでの生活が継続できるよう支援している。家族写真や手作り作品を壁に飾ったりして、利用者が過ごしやすいうように利用者と家族と話し合い居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部(廊下、食堂、居室、浴室、トイレ等)で安全にそして自立した生活が送れる様な配慮を行い、問題があれば職員同士で話し合い改善している。		